なんせ同じ経験者ですもん　　S N

私は自身が「子宮がん」で手術した患者であり、姉も「子宮がん」「乳がん」患者です。そんな私が感じた事、見て来た事を闘病中の方、そのご家族に少しでもお役に立つ事が出来たら幸いです。

「がん」と宣告された時、本人はまずこれから先始まる様々な事柄で不安や動揺で一杯になると思います。楽天家の私でさえも「なぜ私なん？」「手術する？って子供達どうするの？」「どの位入院するの？」という不安で押しつぶされそうになり、病院からの帰り道、電車の中でこっそり泣いていました。でもその不安を同じ様な経験をした友達に感情を抑えず話した事により、まずは手術、と言う気持ちになれた様に思います。家族も同じ動揺・不安で心の中が一杯になり患者本人とは違う大変さに向き合わなければなりません。どんなに姉が憎まれ口を言おうと「はい。はい。ゴメンね。気が付かない妹で」みたいな思いで経験者として聞いていました。不安や動揺してる心をぶつける相手がいないと心まで病んでしまうと思っていたからです。腫れ物に触る様な扱いをすれば、ますます姉の不安や動揺を増長させてしまい、孤独感に苛まれる様になるのではという思いもありました。

そんな私達が心を病まずにいれたのは俗に言う「がん友」です。病院には同じ様にさまざまな「がん」と闘う患者さんがおられます。そんな方々と話す様になった姉は少しずつ落ち付き、「がん」に対しても前向きになりました。私も又その仲間に入れて頂いているうちに帰りに泣くという事が少なくなっていきました。

「がん」と宣告された時、「なぜ」と落ち込み、不安や悲しみを抱え一人悶々としてしまいますが、同じ様に「がん」と闘っている人は大勢います。だから怖がらず人と話しましょう。そして「がん」と闘っている仲間が集まるサロンがあります。話す事、聞く事で「がん」と向き合う為のヒントや希望や勇気や情報、孤独感から少しでも解放され、何かを感じる事が出来ると思います。最初の一歩は勇気がいると思いますが、「がん」に心まで侵されないように同じ仲間の中に入ってみてください。きっと皆優しく迎えてくださるでしょう。なんせ同じ経験者ですもん。患者ですもん。

瀬田の唐橋